

## 《企画書》

提出者：仁湖（にこ）

### 【タイトル】

笑おうね、おばあちゃん！！

～「心だけは自分の自由だから怒るより笑うのよ！」と教えてくれた大好きな祖母に捧ぐエール本～

### 【概要】

本企画は、家族の絆をテーマに、不遇な環境下でも常に明るさを失わずに周囲を愛し、笑顔にしてきた祖母への感謝本兼エール本です。祖母は20歳で自分の意志ではなく家の取り決めで嫁入りし、姑からのいじめ、亭主関白な夫（私の祖父）に苦悩しながらも、愛情いっぱいに私の母や孫の私を育ててくれました。「何事も捉え方次第」。傍から見れば不幸なことも、愛と忍耐と笑いで乗り越える。私も適応障害を経験し、人生に絶望しかけた時期がありました。そんな時、祖母の存在が大きな力となり、もう一度人生を力強く歩むことができています。

けれどそんな祖母が最近体調を崩し、落ち込んでいます。これまでたくさん、祖母に支えられてきました。「おばあちゃん、元気をだして、人生これからだよ！」。今度は私が、祖母を支える番です！ありったけの愛を込めて祖母の良さ・祖母の生き様から学んだことを伝えます。全国のおばあちゃん子、孤独を感じ、笑いたいのになにに笑えない人、生きる希望を見失っている人の心を少しでも温かくする本になればと願っています。

### 【想定する読者ターゲット】

①全国のおばあちゃん子②20代以上の主婦③人間関係に悩む人④人生に孤独を感じ、笑いたいのになにに笑えない人⑤これまで夢を諦めてきた人⑥変わる一歩を踏み出したい人

### 【構成案】

プロローグ 私とおばあちゃん

- 1 ラブ 悲しい時はまずは一生懸命落ち込むの。
- 2 ラブ 生きてるだけでもうけもん。
- 3 ラブ 私は私の愛を。
- 4 ラブ 憎むよりも、赦したいの。
- 5 ラブ まいにち感謝。



## 【4 ラブ 憎むよりも、赦したいの】

おばあちゃんが話していました。

「嫁いで来た時は、『あっ、この家は電気をつけても明るくならない家だな』ってなぜかすぐに思ったのよ。姑からは洗濯物に生ゴミをつけられたり、かけていた眼鏡のレンズをガリガリに傷つけられたり……嫌がらせをされた時は、かなしくて泣いたりしていたけど、伯母さんに泣いた顔みせないようにと言われ、廊下に水を持ってきて目がはれないようにタオルで冷やして寝るようにしてたよ。この家に来たばかりの時は、仕事にいつても何から始めていいか分からず、うろうろしていたときもあったよ。そういう時は、『家に帰って！畑に案山子はいらないんだから』と伯母さんに注意された事もあったなあ」。

祖母は静かに、遠くを見つめていました。

母から別日に聞いたのですが、姑が亡くなった時、祖母は「憎んでいないよ」と全て赦していたそうです。憎むよりも赦す、自分からは愛を与えて。憎しみも連鎖を断ち切る祖母。

「子供たちの成長を本当に楽しみに生きてきたよ。娘には、作文コンクール表彰で新幹線に乗る機会をもらったし、息子のおかげで、大学にも入れたし、初めて飛行機にも乗せてもらったよ。自分だけだったら、新幹線、大学、飛行機などには乗ることも無かっただろうと思っているよ。子供達のおかげで経験させてもらえたのよ。私は、なにも能力がなくても、子供たちそれぞれ、違う性格だけど、自慢の子供たちだよ」。

愛をもって。

「顔が違うようにかんがえも違って当たり前だからね」

「色々経験して、最後は楽しかった思い出話をして、バイビーとなれるようにね。今を大事にして楽しんでね」

祖母から学んだ大切な姿勢は「赦す、受け入れる、愛する」こと。

【以上となります。よろしく願いいたします】。